

大阪府箕面市
令和7年度 こどもの居場所づくり支援モデル事業
報告書

大阪府 箕面市教育委員会事務局

子ども未来創造局 中央図書館

※本事業は、こども家庭庁「令和7年度（令和6年度から繰越分）こどもの居場所づくり支援体制強化事業（NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業）」の補助を受け実施しました。

1【事業要旨】

創意工夫して行う放課後の居場所づくりや、子どもの可能性を引き出すための効果的な支援方策について、NPO団体への事業公募を行い、委託により実施・検証した。

箕面市立西南図書館の会議室等を利用して、登録制による「子どもの居場所」を運営することにより、学校以外の場で、子どもたちが多様な経験を楽しみ、安心して過ごせる場を確保するとともに、学年が異なる子どもたちやスタッフが試行錯誤のプロセスを共有しながら一緒に体験し、共に成長する場を提供した。

- (1) 委託先：NPO法人 MerryTime
- (2) 対象者：箕面市内在住の小・中学生
- (3) 実施内容：
 - ・週2回～3回、西南図書館の会議室などにおいて、子どもの居場所事業「こもれび・ひろば」を実施。
 - ・参加者は事前登録のうえ、各開催日については自由参加とする。
 - ・内容は、学習支援（宿題等のサポート）のほか、軽運動やボードゲーム、軽食づくりなどを一緒に行う。

2【事業目的】

家庭や学校に次ぐ第三の空間として、誰かとリアルに関わる機会にあふれる図書館を活用し、地域の小・中学生の平日放課後の居場所の課題や効果的な支援方策を検証することを目的とする。

3【事業の実施内容】

西南図書館の近隣在住者を中心とした小・中学生を対象として、図書館と密な連携を行いながら、図書館を活用した子どもの居場所づくりに関する事業を実施する。

具体的には、自主学習の支援や遊びを通して主体性を育む場づくり、多世代交流により育ち合う場づくり、その他子どもの可能性を引き出すための事業を企画実施する。子どもたちが他者とリアルにふれあい、相手を思いやるなどの実体験を通して、自己肯定感を高めるとともに、ほっと安心できる居場所を提供する。

- (1) 実施場所：主に西南図書館2階の会議室。
- (2) 主な開催日時：火曜日・水曜日・金曜日の放課後。
小・中学生の滞在は、午後8時を限度とする。
- (3) 利用料：無料。

4【実施結果】

- ・総開室回数：91回。
- ・延べ参加人数：756名。
- ・子どもたちが目的・手段から解放され、五感を刺激する活動そのものを純粋に楽しみ、一息つける環境を作った。
- ・家庭や学校以外で安心して過ごせる場で、共に試行錯誤する大人の存在が、子どもたちの安心感や自己肯定感を引き出した。
- ・家庭や学校に次ぐ第三の空間として、他者とリアルにふれあい、社会から自身の存在を肯定される安心感が得られる図書館という場を十分に活用することができた。
- ・実施に際して地域の人の理解や協力を得られたことで、人との交流、人との輪を広げる効果にもつながった。
- ・保護者からは、「活動を通じて自分の子が色々とできるようになっていることが分かった」という発見や「馴染みの友達がいることが嬉しい」という感想が寄せられた。
- ・「活動で作った軽食を家族全員に作ってくれた」、「活動で教わった工作を自宅で自分で作った」というように、本事業の活動で得た経験を家庭で再現する事例も報告された。

5【分析・考察】

学び、コミュニケーション、生活体験においてリアルに体験することを柱とした本事業のプログラムを通し、プロセスを楽しむ要素を強めたことで、子どもたちが自分のペースで活動できるようになった。

また、大人たちが指導する立場ではなく、一緒に体験したことで、子どもたちにとって年齢を超えた関係性の成熟に寄与した。携わったスタッフの意識にも変化が見られ、子どもたちの感情を否定せず、まずは寄り添い受容したほか、成果以上に子どもが「ただ、ほっと一息つけること」の価値を優先するようになった。この関係性がもとになり、安心できる居場所の基礎づくりができたものとする。

箕面市立西南図書館は箕面市の図書館で唯一、施設一体的に管理していることから、いわゆる閲覧室としての図書館に加え、施設の一室である読書室の調理設備を活用するなど施設全体を活かした活動に取り組めることが特色である。この特色を踏まえ、閲覧室にとどまらず施設全体を図書館と捉えた活動を実施できたことは、今後の図書館や子どもの居場所のあり方を模索する上で非常に有意義であった。

この事業を通じて得た経験や体験、安心して過ごせた居場所の記憶は、今後も子どもたちの心の拠り所であり続けるものとする。同時に、何歳になっても来館すればほっと一息つけるという子どもたちの生きる支えとして、公共施設である図書館が地域にあり続けるという意義もまた、あるものとする。

本事業に関わった子どもたちの中には、未来の子どもたちの居場所づくりを担うひとりとして今後、活躍する者も現れる可能性を秘めているのではないかと期待する。